

## 第26回本社総支部定期大会(2018.8.26)以降の活動を振り返る

### 第26回 本社総支部定期大会を開催 「働き方改革」を主軸とした 運動方針を確認

### 早稲田委員長が勇退し、新たに 橋口委員長(電気部分会出身)選出

8月26日(日)、北梅田研修センターにおいて、JR西労組本社総支部第26回定期大会を開催し、この1年間の活動経過報告と向こう1年間の運動方針を満場一致で採択した。

本大会には執行部、代議員、傍聴者、来賓あわせ約110名が参加。質疑では、働き方改革に関する実態や課題、新幹線



重大インシデントを受けての新たな体制における課題、大規模プロジェクトを抱えている工事事務所の諸課題、大阪鉄道病院における諸課題、ネクストステップを経ないL登用に関する東京指令所で働く組合員の生の声など、17名の代議員から約40項目に及ぶ発言があり、執行部並びに中央本部に対して、それらの課題解決に向けた対応を訴えた。

また、パワハラ撲滅に向けて、会社と徹底的に議論していくことを満場一致で確認しあつた。

役員選出では、長年に亘り本社総支部の副委員長、委員長として非専従であり



勇退された早稲田委員長

ながら様々な課題解決に向けて奔走した、早稲田委員長が勇退し、新たに橋口委員長が選出され、再任された蒲書記長を専従とする新体制が確立された。

役員選出により新たな執行体制が確認され、最後に橋口委員長による力強い団結ガンバローで締めくくった。

### 荻山中央執行委員長挨拶 [要旨]



明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃の業務のご精励とJR西労組運動へのご協力に御礼と感謝を申し上げます。

昨年は大雪、地震、豪雨、台風が相次ぎ西日本地域を襲いました。被災された組合員と家族の皆様にお見舞い申し上げます。また、カンパやボランティア活動などの献身的な取り組みへのご協力に感謝いたします。

そして、酷暑の中、復旧作業やお客様への案内や誘導など組合員の皆様のご尽力によって、一部区間を除き被災路線の早期復旧を成し遂げられたことに御礼申し上げます。一方、年度末に向けた業務幅転への対応や、今回の災害で指摘された危険な状況下での業務指示や勤務のあり方などの課題の解決にも対処するほか、復旧経費の助成、防災対策の強化、代行輸送への支援など、国や自治体に求める政策課題についてJR連合と連携し改善に取り組むこととします。

災害によるJR西日本グループへの影響は少なくありませんが、経営動向は堅調であり、皆様の労苦に応えるべく、2019年春季生活闘争ではベアの継続実施を最優先に公正分配を求めていきます。

以下、安全の確立をはじめ4点につい

て、所信を申し上げ、年頭のごあいさつとします。

#### チェック・提言機能を通じた職場からの安全確立を

昨年9月には福知山線列車事故現場が、慰霊と鎮魂の場、そして私たちが安全を誓い続けていく場である「祈りの杜」として整備されました。事故を決して忘れず、反省と教訓を胸に刻み、本年も安全確立を最優先課題に位置付けて運動を進めます。

昨年4月より「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」がスタートしましたが、8月、9月には協力会社社員の痛ましい死亡労災が発生してしまいました。労災のほか、注意事象、部内原因の輸送障害も増加しており、組織全体で危機感を共有し対策を講じていく必要があります。事故の原因には、共通してルールや基本動作が守られていない実態があります。その背景にも踏み込んで、現場の視点から有効な対策を講じていかなければなりません。

また、新幹線重大インシデントの発生から1年が経過しました。この間の対策を検証し、さらなる安全性向上を追求していくこととします。重大インシデントに係る「有識者会議」の報告書では、JR西日本は「先進的な取り組みをしているが、最後までやり切れていない」、つまり施策を実施した後の検証と改善、PDCAのCとAが不十分だという厳しい指摘を受けています。JR西労組の強みは、職場の実態を的確に把握できることです。組合員の参加によってチェック・提言機能をさらに強化し、職場からの安全確立に取り組むこととします。

#### 参加型、ボトムアップ型の働き方改革の推進を

急速な人口減少や少子高齢化に伴い、JR西日本グループは深刻な労働力不足に直面しています。一方、長時間労働や負担の大きい仕事を解消し、ワーク・ライフ・バランスを推進しなければ会社の持続的な発展は望めません。「働き方改革」は私たちが主体的に進めるべき課題です。人手不足の中での働き方改革は矛盾するようですが、技術革新を活用したり、仕事の進め方を見直すなど、今こそ大胆な改革を進めるチャンスです。

しかし、上意下達で実効ある改革はできません。職場の実態を的確に把握する私たちの側から、業務の割り切りや見直しなどを現場起点で提言し、参加型、ボトムアップ型の改革を進めていくことが大切です。

4月から、法改正により労働時間管理が厳格化されるほか、8月からシニア・シニアリーダー社員や契約社員の賃金など労働条件の改善が実施されます。駅のあり方の見直しを通じた契約社員の縮小、廃止も進めていく方針です。これらの施策を働きがいの向上につなげていくために、皆様の議論への積極的な参加と協力をお願いします。

#### 組合員に信頼されるJR西労組の充実・強化とJR連合民主化闘争完遂に向けて

JR西労組は、労使の健全な発展、雇用や生活、地位の向上を持続させ、社会に貢献していくために、本年も責任ある運動を進めていくこととします。労働組合の原点は助け合いであり、仲間に寄り添い、多様な立場を認め合い、すべての組合員が安心して、意欲を持って働き続けられる環境を築くために職場活動の充実を進

めることとします。

なお、2018年春季生活闘争でJR総連傘下のJR東労組が合理性ない理屈でスト権行使を予告したことをきっかけに、会社が労使共同宣言の失効を通告し、もともと異常な組織を嫌悪していた組合員が大量に脱退する事態が発生しました。脱退者は3.4万人を超えています。これは、JR労働界からの革マル派追放と民主的な労働組合、労使関係の構築を訴えてきたJR連合の民主化闘争の大きな成果です。JR西労組は、独善的、非民主的な組織や運動の末路を反面教師に、組合員に信頼される運動の充実、強化を進めるとともに、JR連合への結集を通じた民主化闘争完遂に向け全力で支援することとします。

#### 仲間が挑戦する統一地方選挙の協力をお願いします

JR西日本グループの経営や私たちの生活は政治と密接に関係しています。地域共生を実現するためには、地方議会を通じた組合側からの政治への参画も非常に重要です。

4月に統一地方選挙が実施され、30代の新進気鋭の組合員2名が挑戦する予定です。組合出身者と家族で構成するJR西労組議員団には、三日月滋賀県知事を含め18名の議員、首長、候補者が所属し、今年はこの2名を含め10名が選挙を迎えます。仲間を議会に送るために積極的なご協力をお願いします。JR西労組新聞No.620号の座談会記事もぜひお読みください。

あらためて、今年が皆様にとって健康で充実した1年となることをお祈りするとともに、JR西労組の運動に対するいっそうのご理解とご参加をお願いします。

2019年元旦